

そばの花（菖蒲谷〈しょうぶだに〉）（揖西町）

いつごろの話かわかりません。

龍野のお殿様が、ある日、家来をつれて、鷹狩〈たかが〉りをなされました。揖西町の新宮谷〈しんぐうだに〉から、井関谷〈いせきだに〉のあたりまで、だんだんと、山ふかく狩場をひろげていられました。

この日は、えものも多かったのでしょうか。お殿様は、たいへんなごきげんでした。お殿様は、おつかれになったのか、しばらく休まれました。そろそろ、お城へ帰ろうと腰をあげられたとき、山のむこうに、たくさんの蝶〈ちょう〉や蜂〈はち〉が舞〈ま〉っているのが目にとまりました。お殿様は、これはふしぎだ、こんな山中に、なぜだろう。と、お思いになりました。

そこで、お殿様は、興味〈きょうみ〉をおもちになり、蝶や蜂の舞っているところへ、どんどんおくふかくわけ入っていかれました。すると、高く熊笹〈くまざさ〉のはえしげっている間から、まっ白な、目もさめるような白い花畑が見えました。白い花畑は、よくみると、いちめんの「そば畑」でした。そして、いまがちょうど花ざかりなのです。そこを、蝶や蜂がまっているのでした。

お殿様は、しばらく、その美しさに見とれておいででした。そして、そば畑のむこうに目をうつされたお殿様は、二度びっくりなさいました。そこに、五、六軒のくさぶきの家がひっそりとたたずんでいたからです。

お殿様は、お供の人に、あれは、なんという村かとおききになりました。お供の人も、はじめて見る村だったので、答えることができませんでした。

いままで何百年もの間、だれにも気づかれず、ひっそり暮していた菖蒲谷〈しょうぶだに〉の村が、はじめて、里の人に見つかったときのお話だそうです。この人たちは、むかし、源氏に破れた平家の落人〈おちうど〉の子孫であるといわれています。

